

ご あ い さ つ

名誉会長 原田 市太郎

1. 「水草同好会」として発足、「水草研究会」と改称し、すでに10年。会員も増え、学会の形をとって発展しております。会報は32号に達しました。

同慶のいかりに存じます。

2. 会則には「本会は水草に関する研究及び知識の普及と会員相互の親睦をはかることを目的とする」と、うたっています。(学会などの常套文言ですが)
3. 自然も人間営為も、万事万般うつろい変わるもの。されども「水草を楽しむ」という気風は大切にしたいもの。

本格的な研究論稿や学術記事が多くなることは、当会の深化・発展のために、もとより不可欠なこと。

以上相まって進むことが望ましいと思います。

「初心忘るべからず、そして展新を！」

4. 会員皆様方のご協力による10年間であります。大滝会長、角野事務局長をはじめ、多くの事務関係の方々の献身的なご努力に、感謝申し上げます。さらに、財政的に格別なご援助を賜りました多くの方々のご芳志に、厚く御礼申し上げます。

1988 (昭和63) 年 8 月 6 日

水草研究会10周年に想う

会長 大滝 末男

「水草とはなにか」と改めて再検討しなければならぬ時期がきている昨今であるが、水草研究会が2年間の準備期間を経て、1979 (昭和54) 年 8 月 19 日に、東京都立井の頭自然文化園の資料館で、産声をあげてから、はやことしは10年目に当たります。

本会が線香花火に終ることなく、このたび第10回全国集會を、東京都立神代植物園の植物会館で、盛大に開催できましたことは、私にとって感慨無量のものがあります。本会は、元北大教授の原田市太郎先生と大滝の二人が核となって、当初は水草同好会として、原田会長のもとにスタートしました。

第2回全国集會は、1980 (昭和55) 年 8 月 9 日、大阪市立自然史博物館で開催しましたが、1980年4月から原田先生は、琉球大学へご転勤なされた関係で、私に会長を譲られました。私は無能を省みずお引き受けいたしました。そのとき名称を水草研究会と改め、同時に副会長・幹事その他の役員も総会で承認されました。特に会報の編集部を神戸大学教養部の角野康郎先生に委嘱して再出発しました。さて、今回の第10回全国集會は、一つの節目に当たるので、本会の経過について、つぎに簡単に述べてみたいと思います。

私が会長を引き受けた当時の会員数は、約100名で、その職業は教員・学生・会社員・官公庁の職員・医師・

および主婦などまちまちでしたが、主流は教育関係者で、これは現在も大きな違いがないようです。その後、会員の入退会者はありましたが、漸次増加し現在の会員数は250名以上に達し、年4回の会報も順調に発行されていることは、まことに同慶に絶えません。

会員の居住区は、東北・北海道(22)、関東(88)、中部(41)、近畿(51)、中国(21)、四国(13)、九州・沖縄(12)で、日本全域に広がっています。なお、いままでに会員名簿を3回発行していますが、あとの2回は東京の会員で、M女史のご支援によることを付記いたします。

会報は、1988年7月現在で32号を数えています。サイズはB5版、1頁2100字(25×42×2)詰で、表紙・図・グラフ・表なども含めて、総計554頁に及んでいます。

ここで30号までについて触れますと、1～10号は合計130頁、11～20号及び21～30号の合計は、それぞれ200頁ずつほどで、内容はややアカデミック的要素が強いのですが、たいへん好評を博しているようです。特に水草に関する文献その他も含まれ、頗る多岐にわたり、概ね初期の目的が達成されているものと考えています。

人間一人の能力や体力、そして時間には限界があるわけですが、水草の生態調査を始めて30余年、私自身毎号の会報が待ち遠しいのが実情です。

因に1～30号までの発表者は合計67名で、投稿論文数は総計302編、その内訳は1頁以下のものも含めると、1(36)・2(11)・3(5)・4(3)・5(3)・6(2)・7(2)・9(1)・10(1)・11(1)・12(1)・34(1)であり、毎号新しい研究や情報が報道され嬉しい限りです。ただし、前述の()の前の数字は投稿論文数、()内の数字は発表者数を意味します。

特に会報の中で目立つことは、水草に関する内外の文献目録及び新刊書を含む出版物や研究テーマ・抄録なども幅広く紹介しておくことで、私自身大助かりしています。

さて、近年生態学の分野の中で、漸次水草に関する研究テーマが多く、一つのブームになってきているようです。殊に湖沼や河川の水質汚濁や富栄養化などが伴ったり、帰化水草の蔓延により、植物社会学が、とりわけ人間生活の環境問題と関連して、水草の存在が急速に脚光をあびてきていることはご存知の通りです。

私は過去9年間、会長としてなにかと不行き届きで、会員の皆様にご迷惑をかけて申し訳ないと存じますが、皆さんのお蔭で、ここに10周年を迎えることができ、深く感謝いたします。今年の神代植物園では、園主催で水生植物展を、去る7月16日～8月14日まで開催しており、本会がこれに協賛して開催することができました。私は7月24日に水草について、講演する機会に恵まれたり、さらに期間中のハイライトとして、水草研究会の全国集也会も開催することができ、まことに幸運でありました。

本会は歴史が浅いせいか、会員の多くは新進気鋭の若い年齢層であり、全国にまたがる会員の皆様が、相互に同じ目的のもとに、ご活躍下されば、今後さらに大成果が期待できるものと思っています。

今回の10周年を期し、会員相互の啓蒙、向上、発展そして親睦を、益々増進させていただきたいと思ひます。

最後に、この度会場を快くお引き受けて下された神代植物園の皆様には深甚の謝意を申しあげます。

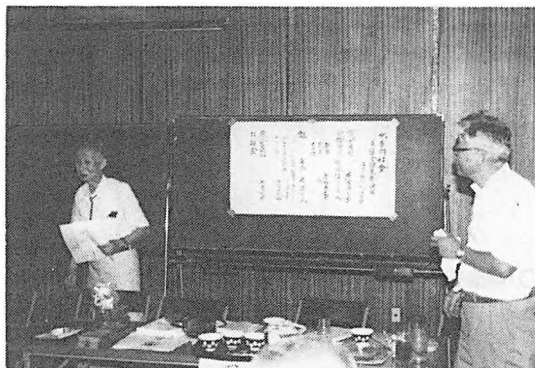
水草研究会全国集会の記録

回	日時	会場	参加者数	備考
1.	1979.8.19	東京都井の頭自然文化園資料館	30名	水草同好会として新発足、会長に原田市太郎決まる。
2.	1980.8.9	大阪市立自然史博物館	28名	水草研究会と改称して再発足、新会長に大滝末男推挙される。
3.	1981.8.23	名古屋市東山動植物公園植物会館	55名	東海地方の水草展開催
4.	1982.8.7～8	岡山県倉敷文化センター	52名	2日目エクスカージョン(日応寺、百間川、金甲山ほか)
5.	1983.8.6～7	霞ヶ浦、銚子屋旅館(貸し切り)	48名	2日目エクスカージョン(霞ヶ浦、鯉川、佐原水生植物園、印旛沼など)
6.	1984.8.4～5	戸隠高原、大西旅館(貸し切り)	42名	2日目エクスカージョン(種沼、野尻湖ほか)
7.	1985.8.3～4	坂出市五色台国民休暇村(香川県)	56名	2日目エクスカージョン(ため池と小川の水草調査)
8.	1986.8.2～3	裏磐梯国民休暇村(福島県)	34名	2日目エクスカージョン(五色沼湖沼群その他)
9.	1987.8.1～2	広島県グリーンピア安浦	36名	2日目エクスカージョン(西条盆地ため池その他の水草調査)
10.	1988.8.6～7	東京都神代植物公園植物会館	61名	2日間とも10周年記念研究発表と園内及び共賛の水生植物展見学

また、準備委員として、御協力下さった相生啓子・片山舒康・斎藤英樹・土谷岳令・野原精一・林浩二・原茂樹・山崎史織の諸氏並びに室内の展示品（写真パネルなど）にご協力いただいた会員で、食虫植物研究会の小宮定志、ホテイアオイ研究会の沖陽子、国立公害研究所の野原精一、ジュンサイを残そう会会長の松田仁松およびため池の自然研究会会長で副会長の浜島繁隆先生らに厚く御礼申し上げます。

さらに、ご祝儀を賜った名誉会長の原田市太郎・松岡鈴子・ホテイアオイ研究会会長の植木邦和先生ら並びに北隆館に対し、深く感謝いたします。

(昭和63年8月28日記)



第1回全国集会(1979. 8. 19) 左)原田市太郎初代会長、右)大滝末男現会長

水草研究会第10回全国集会報告

水草研究会第10回全国集会は、都立神代植物公園植物会館を会場とし、北は宮城県から南は鹿児島県まで61名の参加をえて、1988年8月6日～7日に開催されました。その概要を報告します。

[研究発表]

今回は、手近なフィールドがないことなどから恒例のエクスカージョンを実施せずに両日とも研究発表としました。サーキュレーションでお知らせしたとおり、「日本の水草相の変遷と現状」を中心テーマに話題を募集し、下記の11題の発表がありました。

地域、種、全般と、とりあげ方はさまざまでしたが、それぞれ興味深い話題で、討論も盛り上がりました。個々の問題に結論がでるといより、今後の研究の方向性を考えさせられた2日間のように感じています。

8月6日

1. 松井宏明：イバラカイ湖(パラグアイ)の水草紹介
2. 沖陽子・宇根和昌：都市小河川倉敷川が有する顔
3. 浜島繁隆：木曾三川下流部の岸辺の植生
以上 座長：国井秀伸氏
4. 橋本卓三：広島県芦田川下流域におけるオニバス自生地の消滅
5. 小宮定志：ムジナモの分布の変遷と現況、保護対策
6. 野原精一：尾瀬沼と湯の湖におけるコカナダモの生態

7. 角野康郎：西日本におけるコカナダモの分布と生態
8. 国井秀伸：コカナダモ研究の現状と問題点
以上 座長：浜島繁隆氏

8月7日

9. 桜井善雄：土木工事と水生植物群落
一わが国の現状と問題点一
10. 浅井康宏：日本の水生帰化植物フロラをめぐって
11. 生嶋 功：水草の生態学はいかにあるべきか
以上 座長：角野康郎氏

エクスカージョンを実施しない分、ゆとりある議論をしたい、と考えてプログラムを組んだのですが、やはり討論時間が不足してしまい、演者の方々にはご迷惑をおかけしました。大きな学会とは違うのですから、今後の集会では、じっくり意見交換のできるように日程を検討していただきたいと思います。

[準備作業]

都心からはずれ、交通の便がやや悪い会場でご面倒をかけたのですが、会場の植物会館では7月16日～8月14日に、本会の協賛により水草展が開催され、一般の方々にも水草を知っていただくよい機会になりました。資料などご提供いただいた会員諸氏にお礼申し上げます。

この全国集会をどのような形にするか、1987年12月・1988年1月・6月・7月の4回にわたり下記の準備委員が集まり、検討を重ねました。